

## 2024年度 実務経験のある教員等による授業科目一覧&lt;リハビリテーション学科言語聴覚学専攻&gt;

科目名	単位数	実務経験を活かした当該授業科目への展開
栄養学 (リ)	1	リハビリに取り組むアスリートに対する栄養教育経験のある管理栄養士である教員が、その実務経験を活かして栄養学についての授業を行う。
障害者福祉論 (リ)	1	障害福祉サービス事業を展開している複数の社会福祉法人・特定非営利活動法人の研修講師、オブザーバー、コンサルタントの経験および行政機関から依頼された障害者虐待防止に関する研修講師の経験があり、その実務経験をいかして障害者福祉の理念や法制度について授業を行う。
小児科学	1	小児科専門医として豊富な臨床経験を持つ
医療安全・感染症学	1	医療機関において内科医師として診療に従事しており、その経験を活かして実践的な医療安全学や感染症学についての授業を行う。
リハビリテーション医学	1	医療機関におけるリハビリテーションの実務経験を有する教員が、臨床場面での知識の活用や実用的な訓練法を含めて講義する。
画像診断学	1	医療機関において医師として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして画像診断学についての授業を行う。
医学総論	1	医療機関において医師として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして医学総論についての授業を行う。
耳鼻咽喉科学	1	医療機関において医師として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして内科学と生活習慣病についての授業を行う。
言語発達学	1	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
言語聴覚障害概論Ⅰ	1	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
言語聴覚障害概論Ⅱ	1	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員が、これまで学修してきた知識や技能の臨床場面での活用や応用を含めて指導する。
拡大・代替コミュニケーション特論	1	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
発声発語・嚥下障害学Ⅰ	1	病院勤務において言語聴覚士として業務に従事した経験がある教員が、その実務経験を活かして機能性構音障害や器質性構音障害についての授業を行う。
発声発語・嚥下障害学Ⅱ	1	病院勤務において言語聴覚士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして構音障害の評価や訓練の実践についての授業を行う。
発声発語・嚥下障害学Ⅴ	1	リハビリ病院ならびに医科大学附属病院において言語聴覚士として吃音の治療を行った経験があり、現在も従事している。この実務経験を活かして吃音の評価と訓練についての授業を行う。
聴覚障害学Ⅰ	1	病院の耳鼻咽喉科で言語聴覚士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして聴覚障害、聴覚検査、聴覚補償機器などについての授業を行う。
聴覚障害学Ⅱ	1	病院の耳鼻咽喉科で言語聴覚士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして聴覚障害者や聴覚補償機器などについての授業を行う。
聴覚障害学Ⅲ	1	病院の耳鼻咽喉科で言語聴覚士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして聴覚障害児や発達知能検査、聴覚補償機器などについての授業を行う。
聴覚障害学Ⅳ	1	病院の耳鼻咽喉科で言語聴覚士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして聴覚障害者・児の評価や訓練などについての授業を行う。
言語聴覚障害学総論Ⅰ	1	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
言語聴覚障害学総論Ⅱ	1	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
臨床実習基礎Ⅰ	1	各教員とも、病院において言語聴覚士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、言語聴覚士に必要な知識、臨床実習において必要になる基本的な学びの態度、姿勢等についての授業を行う。
臨床実習基礎Ⅱ	1	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
基礎ゼミナールⅢ (ST)	2	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員が、医療従事者の視点をふまえ、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
基礎ゼミナールⅣ (ST)	2	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
保健体育 (B)	2	主として小学校において、教諭及び管理職として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、学校現場や児童・生徒の実態や様子も踏まえながら、より具体的な授業を行う。
体育実技 (D)	1	高等専門学校教員、高校・大学トレーナー
体育実技 (E)	1	高等専門学校教員、高校・大学トレーナー
体育実技 (F)	1	高等専門学校教員、高校・大学トレーナー
医療英語Ⅰ (医学英単語) (ST)	1	言語聴覚障害に関わる基礎・臨床の研究及び実務経験を有する教員により、臨床現場や研究において使用される英単語について講義する。

医療キャリアデザイン③ (ST)	1	各教員とも、病院において言語聴覚士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、言語聴覚士に必要な知識、臨床実習において必要になる社会人基礎力、基本的な学びの態度、姿勢等についての授業を行う。
臨床心理学 (リ)	2	職業リハビリテーション領域での30年間の実務経験を踏まえて現状の限界性と将来への希望を伝えていきます
社会福祉概論 (B)	2	障害者施設や老人福祉施設において組織運営管理者として従事した経験があり、その経験を活かして、具体的な場面を紹介しながら授業をすすめる。
基礎科学概論	2	病院において言語聴覚士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、保健・医療・福祉に必要な物理学の基礎知識についての授業を行う。
内科学・生活習慣病	2	医療機関において医師として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして内科学と生活習慣病についての授業を行う。
神経内科学	1	医療機関において医師として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして神経内科学についての授業を行う。
高次脳機能障害学演習 (ST)	1	言語聴覚士免許と臨床の経験を有する教員が、学修内容(知識や技能)の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
リハビリテーション概論	2	病院、施設において理学療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を生かしてリハビリテーション概論についての授業を行う。
薬理学 (リ)	2	病院薬剤師、薬品会社の管理薬剤師の経験あり
発達心理学 (リ)	2	言語聴覚士・公認心理師国家資格および臨床発達心理士資格と臨床実務経験を有する教員が、基礎的な知識を特別なニーズを持つ子どもや家族への援助に応用できるように、臨床事例も交えながら講義する。
音響学	2	病院で言語聴覚士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、臨床に関わる音響学の知識についての授業を行う。
病理学	1	この科目の教員は全て実務経験者である
卒業研究 (ST)	2	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員が、専門的な観点から指導、助言を行う。
言語聴覚障害基礎セミナー	1	病院勤務において言語聴覚士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし言語聴覚士の業務領域や医療人に必要なマナー、礼節についての授業を行う。
言語聴覚障害演習	1	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員が、これまで学修してきた知識や技能の臨床場面での活用や応用を含めて指導する。
成人言語障害学概論	2	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員が、学修内容(知識や技能)の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
失語症学演習	1	言語聴覚療法の実務経験を有する教員が、これまで学修してきた知識の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
成人言語障害学演習Ⅰ	1	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員が、学修内容(知識や技能)の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
成人言語障害学演習Ⅱ	1	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員が、学修内容(知識や技能)の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
成人言語障害学演習Ⅲ	1	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員が、学修内容(知識や技能)の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
成人言語障害学演習Ⅳ	1	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員が、学修内容(知識や技能)の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
言語発達障害学Ⅰ	2	言語聴覚士国家資格を有し、言語発達障害領域での実務経験を有する教員が講義を担当する。
言語発達障害学Ⅱ	2	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員が、学修内容(知識や技能)の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
言語発達障害学演習Ⅰ	1	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員が、学修内容(知識や技能)の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
言語発達障害学演習Ⅱ	1	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員が、学修内容(知識や技能)の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
発声発語・嚥下障害学Ⅲ	2	医療機関にて実務経験のある教員が実施
発声発語・嚥下障害学Ⅳ	2	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員が、嚥下障害分野の知識や技能について講義する。
発声発語・嚥下障害学演習Ⅰ	1	病院勤務において言語聴覚士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして発声発語器の運動障害の評価と訓練についての授業を行う。
発声発語・嚥下障害学演習Ⅱ	1	各教員が病院において言語聴覚士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、言語聴覚士に必要な知識、臨床や実習において必要になる基本的な技能についての授業を行う。
聴覚障害学演習Ⅰ	1	教員2名とも、病院において言語聴覚士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、各聴覚検査や聴覚障害者の実際についての授業を行う。
聴覚障害学演習Ⅱ	1	病院において言語聴覚士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、各種聴覚検査についての授業を行う。
聴覚障害学演習Ⅲ	1	病院において言語聴覚士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、聴覚障害者・児の評価や訓練についての授業を行う。

言語聴覚障害学総論	2	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
失語・高次脳機能障害学特論	2	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
発声発語・嚥下障害学特論	2	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員が、摂食嚥下障害領域の知識や技能について総まとめと最新の知見を含めて講義する。
聴覚障害学特論	2	病院において言語聴覚士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、聴覚障害全般についての授業を行う。
言語発達障害学特論	2	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
発声発語・嚥下障害学演習Ⅲ	1	各教員が病院において言語聴覚士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、言語聴覚士に必要な知識、臨床や実習において必要になる基本的な技能についての授業を行う。
聴覚障害学特論（旧カリ）	4	担当教員2名とも病院において言語聴覚士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、聴覚障害全般についての授業を行う。
言語発達障害学特論（旧カリ）	4	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
音声・言語・聴覚医学①	3	病院勤務において言語聴覚士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして聴覚や音声・言語についての授業を行う。
音声・言語・聴覚医学②	3	病院勤務において言語聴覚士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして聴覚や音声・言語についての授業を行う。
臨床実習Ⅰ	6	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて指導する。
臨床実習Ⅱ	7	言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて指導する。

計 117